



ビブリオバトル冬の陣 in 杏和無事閉幕！

杏和高校のビブリオバトルは、学校祭で開催する夏の陣と、12月の保護者会時期に開催する冬の陣があります。そして12月20日、予定通りに開催することができました。バトラーは、各方面からの自薦他薦の計4名。1年生から1人、2年生から3名でした。

滝 明日香さん、 宇佐見 愛華さん
蓑島 千虎さん、 木村 心優さん

今回のバトラーもバラエティに富んだいい作品を紹介してくれました。プレゼンのひとつひとつに個性があって、めいっぱい知的好奇心がくすぐられました。投票の末、第4バトラーの木村さんが紹介してくれた『星を継ぐもの』（ジェームズPホーガン著）がチャンプ本に輝きました。木村さんの勝因のひとつは、この紹介してくれた本を愛していたレベルがほんの少し他バトラーより強かったのかなと感じています。

今回も運営は、すべて図書委員のみなさんで運営しました。みなさん、本当にいい仕事をしてくれました。あらためてありがとう。



第1バトラー滝 明日香さん『緑幻想(グリーンクイム)』新井 素子著

▶ バトラーと本書の主人公は同名であることに大きな共感が。地球の運命を左右する主人公の秘密は、植物の特長を有する異星人であること。登場人物ひとりひとりの考え方の違いが楽しめるポイントらしいです。空想話だけれども、人間を深く見つめ直すことができる本書には、深い愛があふれているそうです。

第2バトラー宇佐見 愛華さん『思い出のマーニー』ジョン・ボンツン著

▶ 主人公アンナが出会った不思議な女の子マーニーは、実は主人公の…。(ネタバレに付き秘密) 愛と友情を描いた感動の物語であるとバトラーは好演。スタジオジブリにより映画化もされた本作のような、やさしい愛につつまれたタイプの書籍が好きで、よく読みますとの事でした。



第3バトラー蓑島 千虎さん『おかげさまで生きる』矢作 直樹著

▶ 「誰かへの感謝を感じて伝えたいという経験はありますか」という問いから始まったプレゼン。私たちの暮らしは、実は目に見えないもので支えられているものばかりで、感謝の気持ちは常に持つべきであると。日々生死に直面する医師である著者の言葉が満載で、ひとつひとつその言葉の重みが素晴らしいと熱弁。

第4バトラー木村 心優さん『星を継ぐもの』ジェームズ・ホーガン著

▶ 第100版を迎えた本書(初版1980年)は、それだけで面白さが保証されていると思いませんか。SFであっても細部の表現が秀逸で、突飛な設定であっても、現実として体感できると力説。シリーズ本もいくつかあり、すべてにおいて、その世界観に深くうなってしまうばかりです、とのことでした。

